# 婦人と新社會

山田わか主筆

## 九月號

◎動物としての要求と人間としての要求の調和が結婚制度
◎個人意志と社會意志との調和
◎夏の陽に伸びる
◎宇和島みやげ
◎三角關係の合理化か精神的自殺か

昭和五年九月一日發行　第百貳拾六號　毎月一回一日發行

東京・婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 動物としての要求と人間としての要求の調和が結婚制度

文明社會の凡ての著明な現象と同じように結婚の組織も自然界の生物學上の目的と、人間界の社會學上の目的との間を妥協させる企てに過ぎない。

故に、結婚制度の外部的の形式は、內部的の此の二ツの目的即ち生物學上の目的と社會學上の目的との間の懸隔によつて、いろ〳〵に變化して行く。

實に、人間は、その個人生活並びに社會生活に於て、此の二重政治によつて治められてゐる。

即ち、人間の動物としての要求と理性をもつ人間としての要求との間の妥協によつて治められてゐるのである。

# 個人意志と社會意志との調和

理想の社會とは一般人が最大なる幸福、即ち、最大なる滿足を持ち得る社會を云ふのだと私は思ひます。其處でその幸福は、勿論、外部の事情による處が少くないものですが、併し、それが主觀的なものであると云ふ事も枕む事は出來ないでせう。そして、その主觀的な幸福とは思想と感情の調和です。

此の思想と感情の調和が理想社會を造るのです。その理想的社會はどうして造られるかといふと、それには第一に思想の組織、第二に感情の組織、第三には意志の組織が必要です。思想の組織の最も單純なかたちは言語です。思想を有効に表現するにはどうしても言語の組織が無ければなりません。言語が本當に社會化してゐなければ到底思想は完全に一般人に傳へられません。一般人に傳へられなければ思想の組織は出來ません。それから又思想の組織が出來ても意志の組織がなければ思想の統一も結局役に立たなくなります。感情の話は長くなりますから此處では略しますが、此意志を組織するには適當な社會機關が必要です。

既に、意志を組織したものが現社會に三つあるやうに思ひます。その一つは私有財產制度、卽ち、個人主義。もう一つは民主的國家、卽ち社會主義。それから、もう一つは地方的區別のない聯合、卽ち、サンデイカリズムです。處で、私有財產制度はほんとうの人間の本能を基礎にしたもので、これは社會を有効に動かす大きな力です。愛の力を除けば最大なる力であります。けれども、もう、これは今の世の中には、絕對ではないが、あはなくなつて來てゐます。

社會主義は十九世紀の個人主義に對する必然な反動でありました。けれども、此の社會主義の普通選擧法に對する世間の不滿は、社會主義が意志を組織する唯一のものでない、叉成功し得るものでないと云ふやうな事を人に考へさせ始めました。そこでサンデイカリズムは社會主義に對する不滿が結晶したものです。云ひかへれば社會主義にあきたらないで生まれたものがサンデイカリズムです。けれども今迄の經驗によると、此のサンデイカリズムも亦意志の組織に充分でないやうです。

○

個人主義に立脚した私有財產制度と云ひ、普通選擧に立脚した社會主義と云ひ、政治に對する反動から起つた非國家主義のサンデイカリズムと云ひ、是等のどれも一つでは理想的社會を造る事は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出來ないと私は思つてゐます。最も、これ等のどれもこれもが理想社會を建設するになくてならぬ要素ではありませうが。と云つてこれ等の三つを唯機械的に聯結させた處で駄目です。自然に聯結出來る發明がなければなりますまい。云ひかへれば、社會意志と個人意志との調和がなければならないのです。社會意志と個人意志とが調和出來て此處に始めて幸福な理想社會が實現するのです。

理想社會とは幸福が組織された社會です。言換へれば幸福の社會化ですから、社會を解剖して見ようとする時には、富や思想や意志よりも、つまり富はどうなつてゐるか、思想はどの方向に向つてゐるか、意志はどうであるかを見るよりも、果して幸福が造り出されてゐるかどうかを見た方が好都合であるやうに云はれてゐます。

個人主義にしろ、社會主義にしろ、皆幸福を造り出すのが目的なのですが、それが物品を造る事に終つてしまひがちになるので困るのです。ここに一人の職工があるとします。彼の賃銀は充分で、そして仕事も余り骨が折れない。外から見れば何一つ不足はなささうでも、彼自身は決して幸福でない場合があります。それは仕事が單調であるので、彼は毎日をあきあきした氣持ちで送つてゐるからです。彼は富を造つてゐますけれど、幸福を造つてゐないのです。

富を造る事、そして、富を造るに付いての最上な狀態を造る事は、比較的容易なものです。けれども人間の幸福を造る事は容易でありません。富を造るには一個人の意志を統一すれば足りますが、幸福を造るには個人の意志と社會の意志との調和がなければ、つまり、統一がなければなりませんから。

又、富を造る事と幸福を造る事とは、共に產業組織の二つのタイプに相違ないのですが、後者は人を幸福にしますが、前者は唯人に苦痛を與へるにすぎないものであるかも知れません。ですから生產が國民化せられたからと云つて、必ず國民が幸福になるとは限りません。同じ共和國でも同じやうに幸福が受けられるものではありません。一方の共和國は幸福でも他方の共和國が不幸である場合が少くありません。

○

私達の理想國は私達が最大なる幸福を受けられる國だと申しましたが、此處に私達の注意を要する事は、私達が今住んでゐる此の社會には、幸福と云ふものが絕無である、社會は不幸許りであると云ふやうに思ひ込んでゐる事であります。云ひかへれば私達が余りに不幸と云ふ事を誇張してゐ

る事であります。そしてほんとうの幸福を持ちながら、それを知らずに、矢張り不幸であると思つてゐる事であります。

ですから、ほんとうの幸福を味ふには、自分の態度が正確でなければなりません。自分の態度がまちがつてゐるならば、即ち、色眼鏡で物を見るならば、寶の山へ這入つたからと云つてその寶が見えません。で、どうしたなら、私達の態度が正確になるかと云ふならば、私達はものを見るに三方面から見なければならないと思ひます。即ち、三つの態度を持つてゐる事です。科學的態度、藝術的態度、實際的態度と。科學的態度によつて私達はものを正確に知る事が出來ます。藝術的態度によつて私達は感じ同情することが出來ますし實際的態度によつて私達は事を進めて行く事が出來ます。この三つが並行して始めて私達は誤らないものの見方をする事が出來るのです。そこに自己の意志と社會意志との一致點を見出す事が出來るのです。そして、ほんとうの意味の幸福を味はふ事が出來るのです。

要するに、理想的社會は各人が此の三つの態度を正當に應用する事によつて造られるのです。進歩とは人が此の三つの態度を學ぶ過程を云ふのです。文明の最大條件の一つは、此の三つの態度の





Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

關係です。智識は實益に重きを置き過ぎて危險です。感情はものゝ價値を誇張しすぎて危險です。實際にのみ重きを置くと無情になる怖れがあります。

ハックスレーがかつて申しました『最も神聖な行ひと云ふのは、眞理であると云ふと同時に、さう感じ、そして、それを行ふ事である』と。知ると同時に感じ、そして、それを行ふやうな人間から社會が成り立つて、そこに始めて理想的社會が實現しますが、さてさういふ人間はどうして造られるのでせうか？

## 夏の陽に伸びる

拭いても〳〵皮膚の上ににじみ出ては流れる汗は體がゆだるのではないかと思へる位ひですが、併し、立樹の葉が燒きつけられるやうな強烈な日光を雄々しく浴びて益々其の綠色を冴へさせてゐるのを見る時に、自然の攝理の妙味を感じ、此の暑さにへたばつたり、此の暑さを避けるために何處かへ行つたりするのでなく、此の暑さに打ち勝つことによつて我々の肉體及び心は無限に伸びて行くのだと私は痛感します。

□

自分から計畫して夏期は餘計に仕事を引き受けると云ふわけではありませんが、とにかく、夏期には平生の殆んど二倍は仕事をするやうになるのが毎年です。

と云ふのは毎月〳〵書く原稿の量は大凡一定してゐますが、夏期殊に八月はいつも地方に夏期講習會とか夏期大學とか云ふ名の下に講演會があります。それに大分時間をとられますので、原稿を書く時間には二倍の馬力をかけなければならないことになります。

今年は、「婦人每日新聞」の社說を每日々々書いて居りますが、八月には新潟縣と愛媛縣と神奈川縣とに於ける講演會に行きましたので、原稿を書く時間を二倍にしました。暑いとか涼しいとか云つてゐる暇も與へられないと云ふような狀態です。

東京は暑いから今年は海にしようか山にしようかと人樣は考へてゐる最中に、私はどう時間の繰り合せをつけようかと云ふことに忙しくて、此の暑さをどう過そうかなど丶云ふ餘裕を心に持ちませんが、併しやせ我慢で無しにこれが私の銷夏法であり、こうして働き得ることに私は喜びと誇りとを持つものです。

□

九月の末になつて涼しい風がひたいの汗をかはかして吳れる時には、その風がさも「長い夏の間御苦勞だつた」と私をなぐさめて吳れるような氣持ちがするのですが、本當に其の時こそ私は「我炎暑との戰ひに勝てり」と云ふ氣持ちで凱歌をあげるのが常ですが、此の快心は、夏の間爲すこともなく暑さに體を持てあましてゐたり又は、暑さを海に山に避けてゐたりしてゐたのでは到底味ふことの出來ないたまものです。

□

常春の國、北米の西沿岸に暫く生活して、夏も無ければ冬もない、つまり、衣服と云い室の裝置と云い年がら年中同じで通してゐて、日本へ歸つて來た當時は、日本の生活は本當にうるさいと思ひました。衣服は勿論のこと室の裝置まで夏が來る度に、又冬が來るたびに取りかへなければなりませんので。

けれども、嚴寒にもめげず雪にもいためられずに、氣品のある梅の花がちらりほらり笑み始めて高いかほりを周圍にはなつやうになつた時の愉快さ、あの氣持は常春の國になど住んでゐたのでは到底味ふことは出來ないことを私は知り、夏も結構、冬も結構と思ふようになりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□

苦樂は盾の兩面であることを私は信じる者です。與へられた苦(にが)が辛ければ辛い程、その後に與へられた甘い苦がより甘い。

□

生活の苦勞を知らない者に生活の樂しさは分りません。

つまり、滿全の幸福を味ひ得る人は、此の人生の、滿全の苦勞をした人です。

□



こう云ふ人生觀を持つてゐる私は、夏期には暑さを避けることの代りに、暑さを考へては居られない程多くの仕事を喜んで引き受けてゐます。

もし、今後、そんなに仕事を與へられないような時が來れば、私は、又、暑さなどは考へて居られない程自分の興味を引く研究なり讀書なりへ沒頭しようと今から考へてゐます。

これが最も有益な、そして、効果ある銷夏法だと私は信じてゐます。

# 宇和島みやげ

伊豫の宇和島へ行つてまいりまして婦人每日新聞へ「宇和島みやげ」を書きましたので此處へ轉載致します。

東京の苦熱を離れ、夜行列車の煙をあびるむし暑き倦怠な氣分を捨てゝの瀬戸内海上の涼風は、私に同行の妹に歡喜の聲をあげさせるに十分でありました。

さわやかな水の上に照りはえてゐる夕日、千變萬化な雲の色と形、或箇所はなご　かな女性的な模樣を、或箇所は男性的な峨々たる、又は、怪奇な形を描き出

してゐます。

その美しさは、此の地球上の神秘と天國とを思はせます。

大地に足をピツタリ付けて生きてゐる限りでも、ともすれば、人間苦の怒濤に其の足をさらはれはすまいかと不安を感じる者にとつては、其の美は大きな力であり深い慰安であるに相違ありません。

□

「姉さんの一人旅を兄さんがあんまり心配するから、今年の夏は兄さんへ奉仕、つまり、夏の旅を苦む覺悟で私はお供して來たのだけれど、何と云ふ素晴らしい納凉だらう！　あゝ、まうかつた。が、此の凉しい風を東京で暑がつてゐる人達にびん詰めにでもして送りたい！」妹はくりかへし〳〵云つてゐます。

ホンノリかすみのかゝつた島々の麓に、丁度、礁岩の根もとにしがみついたかきの殼の群のやうなごちや〳〵かたまつた人家が眠つたやうな姿を見せてゐます。或家からはポツンと、赤い灯がまたゝいてゐます。



「なぜ私達はあの氣ちがひのやうに騒々しい、あの蜂の巣をつツついたやうに目まぐるしい東京に住んでゐなければならないのだらう！　かう云ふ靜かな處に住みたい、電車の音がないのが嬉しい。ホコリもないのが、何と云ふ救ひだらう！」

朝夕のラッシュアワーに電車にもまれては丸の内のビルデングに通勤してゐる妹は絶叫しました。

「かすみを隔てゝ、松原を通して見るあの村は夢のやうに美しい、平和其のもののやうに見ゆるけれど、いざ、あの村の中へ這入つて見ると、キツト、因習のかたい殼もあるでせう。感情のこんがらかりと云ふ蜘蛛の巣も少なくないに相違ない。自然のまゝのほがらかな氣持ちで村人達が相まじはつて愉快な日ばかりを過ごしてゐるとは私は想像しない。病苦も無いとは決して云へない。あなたはあこがれてゐるけれど、私はあそこもやつぱり人の世だと思ひますれ」と私は歎じるのでした。

□

無限の種類の色と形をもつて、瀬戸内海上を縦横に



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

活躍してゐた太陽の力の鋒先が稍弱くなつた頃に、宵の明星がピカリと登場しました。やがて、太陽の餘光がスッカリ其の姿を消して了ふと「待つてました」とばかりに月が霞んだ山の端にホッカリ登りました。

何と素晴らしい舞臺面の變化であるでせう。

□

何か一句有りたい氣持ちが心のうちにムズ〳〵しながら其の素養がないためにまとまらないもどかしさを感じながら月と水に心を殘して船室に入る。大部分の乘客が既に其處に納まつてゐる。絨だんを敷いた床、四ツ折りにした毛布の上、糊の強い白いカバーをした枕をズラリ並べて。

何となく氣安い親しい心持ちで自分達も五六時間甲板に立ちつくした疲れた身體を遠慮もなく横にしました。

□

その頃から母親にむずかり始めてゐた三ツ位の女の子がやがて大聲あげて泣き出した。平生さう云ふ習慣であるらしく氣ながにワーワー泣いてゐます。二十人



あまりの船客を收容してゐる室内に其の泣き聲が充滿して誰一人安眠に入ることが出來ないのだけれど、若い其の母親は一向泣きやめさせようと努力しません。

夏の夜の室外は寒くはないから一寸抱いて出て呉れゝば其の間だけでも皆が助かると思ふけれども彼女は立ち上がらうともしない。寢たまゝで時々「そんなに泣くと皆さんがおやかましいからおだまりよ」と單に云ひわけがましく落ち着いた語調で云ふけれど、そんなことを了解出來る年齢に子供はまだ達してゐません。

あちらの頭、こちらの頭がチヨイチヨイ動いては、迷惑さうな目が其の母子に投げられるけれどもお母さんの心は呑氣で天下泰平です。

船の中ばかりではない。講演會及び其の他多くの公會の席上でもかう云ふ他人に迷惑をかけることに鈍感なお母さんをよく見受けますが、女子に對する公民教育の必要が叫ばれてゐる今日、かう云ふ點に先づ一般婦人は氣付かねばなりません。社會生活乃至共同生活に對する觀念の缺乏、要するに新時代の女性としての

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資格を缺いた婦人が一人でも少なくなるやうに心がけたいと私は念じました。

□

一人の幼兒に二十數名の人達が煩はされ通してゐる間に地球は一廻轉をしました。船室の小さい窓を太陽の光線の最尖端が叩きました。起き上がつて東の方を眺めてゐる間に火の玉のやうな太陽がスク／＼と山のかげから立ち登ると見る間に水面には强烈な火の柱が立ちました。

偉大なる力の太陽、此の地球上へ熱と光りを送つて一切の生物を育み成長せしむる太陽に此の世界と云ふ舞臺をゆづり、月と星は其の淡い神秘的な光りを納めていつの間にか退場してしまひました。

□

夜明けのスガ／″＼しい空氣に包まれた高濱の港、色の美しいかをりの芳ばしい桃を山と積んだハトバへ船は着いて、間もなく、又、出帆しました。

神戸から同船してゐた一人の洋裝モダンが或小さい港で下船しました。柄の大きい洋服、絹の靴下、華美なパラソル、高い踵の靴でシヤナリ／＼歩いて行く。夏の歸省と見た私は妹に云ひました。

「親が四苦八苦して、恐らく、田畑を賣つてまで工面した學費で娘が覺えたものはあれだけだ。なりふりかまはず眞劍に勉强した處が、本當の人間にはなり得ない役に立つ女にはなり得ない今の女子敎育を受けに都會に出て、覺えて來たものがあれだけでは親は泣いても泣きゝれない。學校病を癒やさなければならない。學校を信頼しすぎゐ親の迷夢を醒まさなければならない」と。

□

宇和島みやげを書かうと致しました私の動機は宇和島市の表玄關なる宇和島港内より一目に目立つ建築物、市の都市美に一異彩をそへてゐる地方文化の殿堂、南豫文化協會の經營にかゝる南豫會館と其の事業を御紹介したいと云ふ事だつたのですがツイ道草をくつてゐたわけでした。

□

南豫文化協會は南豫伊達家の出身、當代華胄界の新

人として名高き二荒伯を會長とし、地方有力者の幾人かを幹部とし、南豫の一市四郡を限界とする市町村男女青年團主婦會等を對象として不斷の文化運動に努力してゐるものでありますが、これは去る大正十一年今上陛下がまだ東宮にまします頃此の土地へ行啓遊ばされた記念として設立せられ、以來八年間あらゆる方法をもつて社會敎化の事業に當り、講演會、講習會、社會敎育映畫會等を開催すること一千回に渉り、延人員九十五萬の大衆に呼びかけてゐると云ふことです。

殊に此の協會が最も力を注ぐ處は毎年八月初旬を期して中央より第一流の人格的學者を一回に三四人もしくは五六人宛招聘して夏季大學を開催し、地方好學の士に精神的糧を與へつゝあることです。

□

が、この事業の遂行に際し、いつも不便が感ぜられてゐることは一市四郡中樞文化の機關たる中央に修養的殿堂が無いことでした。で、一昨年の秋曠古の御大典を擧げさせられる一世の御慶事を機會に其の記念事業として南豫會館を建設してはと云ふ議が起つた處、たちまち、郷土内外の先覺有志、及び、一般大衆の共鳴があり、大は伊達家の一萬五千圓から小は製絲工女或は小學生の五錢十錢迄市郡幾千の人々の美しい獻金により六萬五千圓の豫算の南豫會館は今年五月に完成されたのでした。

□

南豫文化協會の敎化事業及び會館建設に當つて、一切を統轄掌理してゐる協會の主事、即ち、中心人物は終始一貫正義赤誠の熱血兒森岡天涯氏であります。

森岡氏は云ひます「人情紙より薄く道義は次第に廢れ、慌たゞしき今の社會にあつて、この會館にあつまつた潤ひに滿ち溢れた人間のつながりは容易に得難いことゝ感じてゐます。世間はともあれ私達は此の情誼的關係をより深くより强くして行き、南豫の一角に滿たし、若き侯儕を大成せしめ、君國のために奉仕せし明治維新の變に於ける祖先の偉勳に彌まさしめたいと考へてゐます。

會館建設を直營にし、一點疑ひのない理想的記念物としたい考へで、大工、左官、その外人夫に至るまで



Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一切の情實を排し、一世一代に人間として奉仕的にやつて呉れる人々のみを選みました。カンナ一枚磨くにも俺達の手で此永久の記念物を建てるのだと感激の情をもつてやつて呉れました。誠に涙がこぼれる程嬉しい次第です。

この不景氣風の吹き荒む中に總ての人々が心から捧げられた淨財を一錢たりとも空費してはすまぬと考へ、私自身が拂ひ下げて貰つた林中へ行つたり、製材所から現場へと廻り板の片切れ一枚も無駄にせぬやうにしました。

多數の青年團員が手辨當で各々一日づゝ胴搗きに勤勞奉仕をせられて會館の基礎の根底に血と汗の純潔な精神を打ち込まれたことは感激に餘りある美擧です。僞りながら幾多の人間美が織り込まれてゐる日本に先例なき純潔無垢の建物として誇るに足るものと私は信じてゐます」

□

誰やらが云つてゐました。「太平洋を眼にかけて苦闘二十年、鋼鐵の如く鍛へられた意志、汽關車の如き邁進力、火の如き熱、而して博識雄辯なるわれ等の慈父森岡天涯氏」と。

此の森岡氏を生んだ南海の孤島日振村は其の名を聞いただけで婦人や子供に戰慄を覺えしむるやうな、風儀の亂れた、無賴の徒の横行跋扈する所でありました。

一ヶ月に開ける酒樽の數は九十を算しました。

その惡舊慣を打破し、一ヶ月十八樽に大制限し――現在は十五樽に節酒するやう要求中――此處に生れた剩餘をもつて小學校の建設其の他の文化事業を行ひ、今日の天下の樂園となし、模範村の名を謳はれるやうになつたのは實に人間愛に燃ゆる森岡氏の至誠と熱の結果でありました。現に私の滯在中も婦人會の一團が日振村へピクニックに出發しました。森岡氏は「昔は日振村と云へば罪人が島流しにでもされる處のやうに思はれ善良な人間の近づく處ではないやうに考へられてゐたのが、今は遊山に行く處になりましたよ」と感慨無量の態でありました。

□

この至誠の人森岡氏が指導する南豫文化協會の事業は著々と其の功績を現はしつゝあります。私は宇和島市に於ける南豫會館に於て三日間午前中三時間づゝ、吉田町に於て一日、北宇和郡二名村に於て一日講演を致しましたが、私が最も感激した處は最後の此の會場に於てゞありました。

二名村を中心として十二ヶ村の男女青年團及び婦人會員は七里乃至八里の山道を遠しとせず、開會前に續々と會場へ集合して來るのでした。私が森岡主事と共に其の會場へ乘り込んだのは午前九時の開會に十分程前でありましたが、既に聽衆はあつまりつくしてゐて九時に鳴るベルの音と共に、千有餘名の純眞なる青年男女及び人生に於る最も重要な位置にある主婦達はピタリと席について一絲亂れぬ有樣でありました。私は自分の使命のいよ〳〵重要なるを感じつゝ入場致しましたが、これを見るに付けても、國の中央、帝都に於ける婦人の會合の時間のだらしなさをまことに恥づかしく思ふのでした。

□



南豫に於ける講演は全部午前中ときまつてゐましたが、たま〳〵午後を希望する者があると森岡主事は「一年に一回しかない精神的糧を攝取する機會を與へられながら午前中は都合がつかないなど、とぼけたことを云ふ奴は來なくてもよろしい。一體、一年のうちに一日か二日午前中うちをあけることによつて米櫃が空になると云ふのか？　馬鹿な！」と叱りつけます。

□

時によると、壓制的と思はれる程の權威をもつて森岡主事は自分の計畫を他人に押しつけますが、併し、それは斷じて私利のためではない。公共事業のために最善を盡さうとする至誠のほとばしり、强き人格の正しい要求でありますので、誰でも其れを聽かないわけにはまゐりません。

□

一國を左右するやうな大人物はいつも地方から出てゐる。都會ではめつたに大器は造られない理由を私はまざ〳〵と南豫に於て見せられたやうな氣持ちがします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

尖端と云ふ言葉を用ゆることに満足を感じてゐることによつても證明されてゐるやうに、都會人は四六時中、外部的な目の先のことに心を奪はれて感覺の尖端にのみ生き、あたふたと日を送り、シッカリ精神を鍊ると云ふやうな餘裕を心に持たない。

たま／＼有益な話があつても、大抵は、其れが面白かつたとか、面白くなかつたとか云ふ位の處で、要するに、善いことも惡いこともいゝ加減な處で腦髓の表皮を通過して行つてしまふ。

都會に於て日頃感じてゐた物足りなさを私は今回南豫に於て滿たすことが出來ました。國の將來の爲に大いに力强さを感じました。

同時に、南豫の一市四郡を教化區域として鐵のやうな意志と火のやうな熱をもつて眠る暇も惜しさうに奮闘努力して居られる森岡天涯氏と氏の指導の下に健實なる進歩向上の歩みをつゞけ、將來は國家の運命を其の双肩に擔はうとする純眞な青年男女及び主婦達の健康をはるかに祈らずには居られません。

□

## 宇和島みやげ

宇和島からは永久に忘れ得ない好印象を持つて歸りました。

神戸を出帆してから二十八時間目に着いた夜の宇和島港は點々たる灯をもつて綴られてゐました。

南の國はさぞ暑からうとの想像でありましたが、併し、深い山から又はキレイな海から絶えず吹き送られて來る涼風は東京などでは到底味はひ得ないものです。

特に私が嬉しかつたのは森岡氏宅の二階に御厄介になつてゐて夜間戸を閉めずに寢てもよいことでした。東京では月と涼風がたまたまあつても其れは常に閉め出して休まなければならない口惜しさが骨髓に徹してゐますので。

新鮮なお魚、三日穿いても四日たつても足袋やハンカチに少しも汚れが目立たない程ホコリを含まない空氣、森岡氏宅の庭の鐵柵に沿うて赤い可愛い薔薇が二りんパッチリ開いて鐵柵の外の路傍へと首をかしげてゐるけれども、それをつまみ取らうとする無慚な惡太郎がゐないことも、本當に私の氣持ちを明るくしま

した。

口

皓々たる月光を浴びた凉風滿喫の南靈會館バルコニーに於けるお茶の會。德川時代に殿様が參覲交代に江戸へ御立ちになる時の昔ゆかしき模様の話やら、スピード時代のやかましい問題に就いての議論やら、甘い西瓜をふくみながら夜の更けるのも忘れた閑談。まことに良き思ひ出です。

誰かゞ云つた「君知るや南の國」と私も聲高らかに叫びたい氣持ちです。

口

往路の海の上及び南靈に於ける爽快な氣分が歸路の上にももし惠まれたとすれば私に同行の妹は船の旅に對する正しい觀念を持つことが出來なかつたでせう。

その日は空模様が大分險惡になり、出發をとめられたにも拘はらず、日程を變へることが出來ないので無理に乘船した處が案の如くに海は荒れて妹は大分やられたやうでありました、そして、天の配劑の妙に私は微笑しました。

## 三角關係の合理化か精神的自殺か

文壇の名家と云はれる谷崎潤一郎氏と同氏夫人千代子氏と佐藤春夫氏との間に久しい以前からわだかまつてゐた戀愛葛藤はツイに解決に到達し、この度三人連名で友人知己に聲明書を發しましたがそれに付て柳原白蓮氏は「從來主人のある婦人が他の男性と友情以上の親密な關係に陷つた場合これを姦通といふ語で呼んだが私はさうした言葉が一般の人の心に生み出す一種のいやしい氣持を以て人間の眞劍な心の交渉を眺めるのは宜しくないと思つてゐる、從つて今回の谷崎氏等の行動も興味本位で眺めたくはない、もと／＼事件は

當事者間の自由意思で決定されたことだから何も事情を知らぬ私共としてはあまり論議したくない」と云つて居られますが、併し、あの人達も我々普通人とは別な社會に生活して居られるわけではなく、我々と同じ社會人であり、殊に、文壇の重鎭などゝ云はれて居るだけ、それだけ、あの人達の行爲が社會に影響を及ぼさないわけには行かないのですから、第三者なる私共は大いに批評を下す權利があると同時に義務があると私は考へます。戀愛問題は私生活の事柄であるから社會が干渉するのは間違つてゐるように長い間考へられてゐましたが、併し、私は、男女關係は人生に於ける根本事實であり、同時に、社會と密接な關係にあるものと考へてゐます。

今度の事件の三人が連名で聲明書を發したことは其れが私的の事柄でなく、公的な事柄であることの證據です。

又、里見弴氏は「とかくかうした問題は市井では考へない人々が斬つた、はつたの騷ぎを起し易く、またいはゆる貴族的社會にあつてはお互ひにふくむところがありながら表面だけをごまかす者が多い、そこでこの共同聲明書を見るに「朗らか」といふ感じがする、兩方の物の分つた性質を知つてゐるから、あの聲明は付燒刃でも何でもなく、實際心からあの通りであることが信じられる、殊に令孃は母親と一緒に住み、双方の交際は從前通りといふ點などは全くあの通り考へてるのに違ひない」と云つて居られますが、成程斬つた、はつたの騷ぎを起すよりも、又心に不平不滿の暗雲の一抹をたゝへながら表面だけ平穩をよそほうてゐるごまかしの生活よりも、或は、又、離婚、結婚のけじめをつけずに三角四角と發展して行つてごたつくよりも一歩進んでゐるには相違ないけれども、果して、少なくとも谷崎氏が「朗かな」氣持で居られるかどうか？其處に大きな疑問を私は持つてゐます。

□

萩原朔太郎氏の話のうちに「今度のことに付いては谷崎君が佐藤君に「君が僕の妻を慕ふならば勝手にしろ」と云つたことが動機に成り立つたのでせう」とあり、又谷崎氏の言葉のうちにも「十六七年も同棲して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐたことだから、そりや多少の思出もないこともないが、よろツきり知らぬ人に讓つてしまふのでなく、友人の佐藤君に讓るのだから……」とあつて、千代子夫人が全然物品扱ひにされてゐるのもまことに不愉快です。

□

自分が戀してゐた乙女が自分の友人を戀してゐた事實を知つて乙女の心を尊重するあまり、自分の心を殺して其の乙女と友人との仲を斡旋するといふ事柄のうちには其處に何となく爽快な涙ぐましい美しい感情を味はふことが出來ますが、今度の場合には大きな不自然さと不快とがつきまつはつてゐます。

忌憚なく云つて見るなら、千代子夫人は、谷崎氏が自分をないがしろにしたむしやくしや腹で佐藤氏を愛するやうになつた。谷崎氏と佐藤氏にして見れば、どうせかうなつた以上、尖端的な解決法なして世間に新らしい型を示してやらうと云ふ氣持ちが感じられて仕方がない。

いづれにしろ、此の離婚及び結婚の型はあまりに人間の精神的方面を無視したもの、本人達は三角關係の合理的解決法と考へてゐるかも知れないけれども、少なくとも谷崎氏の心に殘る不滿はどうにもならない。故に本當の解決ではない。

要するに、この人達もまだ精神の力で愛慾を整理出來ない。いくつになつても愛慾にひきずられてゐる可哀相な人々であると云ふことだけは確です。

「喜壽の祝ひ」之れは私の父が七十七の祝ひを致しました際全國各方面から寄せられました和歌、俳句、漢詩、俗歌、川柳等の集册大家揮毫書畫寫眞版五葉四十頁和裝上紙五號活字印刷優美同好の士は切手十錢封入御申込下されば直に拜呈仕可候

長野縣南安曇郡豐科町　會田貢

本誌定價（臨時表）

| | | |
|---|---|---|
| 一册 | 金十錢 | 送料五厘 |
| 六册 | 前金五十五錢 | （送料共） |
| 十二册 | 前金壹圓 | （送料共） |

昭和五年八月廿三日印刷納本
昭和五年九月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區若松町五四
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社